

## 平成24年度第5回（第10回）花見川地区学校適正配置地元代表協議会議事要旨

1 日時 平成25年1月30日（水） 18時30分～20時30分

2 場所 花見川公民館 1階大会議室

### 3 出席

(1) 委員 20人

※代理出席：西田委員代理出席中澤氏

※欠席委員 2人（井元委員、熊谷委員）

(2) 事務局 企画課高須課長、池田主幹、国方補佐、小口主査、山崎主査補、安井主査補

(3) 傍聴者 16人

### 4 資料

(1) 資料1：地元代表協議会における協議の概要

(2) 資料2：話し合いの進め方について

(3) 資料3：統合場所についての考え方

(4) 資料4：中学校の統合について

(5) 資料5：中学校の状況について①

(6) 資料6：中学校の状況について②

(7) 資料7：小学校の統合について

(8) 資料8：小学校の状況について①

(9) 資料9：小学校の状況について②

### 5 概要

(1) 各団体における報告事項をもとに協議を行い、中学校の統合場所については、第一中とすることが合意された。

小学校の統合場所については継続審議となり、次回協議会で項目別評価表を提示して協議することとなった。

(2) 次回協議会は、3月13日（水）18時30分から花見川公民館大会議室で開催することとした。

### 6 会長挨拶

原田会長：本日で10回目の協議会となり、第1回開催以来、1年8か月となった。

統合の時期と組み合わせについては方向性が出されており、統合の場所については中学校は第一中で確認され、小学校については協議途中である。統合に向けた十分な準備期間を取るためにも、合意に向けての協議への協力をお願いします。

## 7 報告「前回協議会について」

### ●発言要旨

藤井議長：事務局から前回の協議会の概要について報告をお願いします。

事務局：まず、前回協議会についてである。資料1：地元代表協議会における協議の概要をご覧いただきたい。前回（第9回）協議会では、各団体における報告事項をもとに協議を行い、中学校の統合場所については、第一中とする方向性が確認され、各団体に持ち帰って検討し、本日の協議会で報告することになっている。また、小学校の統合場所については、引き続き本日も協議することが確認されている。

藤井議長：次に、前回の協議会后、各団体で話し合われた内容等について、特に「中学校を第一中とする」方向性についての意見を中心に集約して報告願いたい。小学校の統合についての意見報告は協議の中でお願いします。また、報告に対しての質問やご自分の意見を発言したい場合も、この後の協議の中でお願いします。中学校の方向性について話し合われた内容のみ、簡潔に報告をお願いしたい。はじめに事務局から、お願いします。

事務局：事務局では、1月12日に花見川第一小学校の特別支援学級保護者との意見交換を行った。5名の参加があった。詳細は、このあと板谷委員から報告していただきたい。また、1月19日には第二中学校区青少年育成委員会報告会に参加した。30名の参加があった。こちらについては、藤井副会長より報告をお願いします。

藤井議長：続いて各委員からの報告をお願いします。

板谷委員：実施した保護者へのアンケートと特別支援学級保護者との意見交換を行ったが、まずアンケートについて報告する。アンケートは、全保護者165世帯に配布し118世帯からの回答があり、回収率は72%であった。

「平成27年4月に中学校の統合場所を第一中とすること」についての設問には賛成82%、反対1%、どちらとも言えない15%、その他・無回答2%であった。「中学校の統合に対する不安について」の設問については、82%が不安なし、14%が不安あり、無回答が4%であった。不安の内容としては「グラウンドの狭さ」「通学の安全確保」「学校としてのサイズの小ささ」があげられている。

川口委員：「統合をなぜこの時期にするのか」という声はあるが、中学校の統合場所については「第一中とすること」への疑問の声は出ていない。

「統合をいつやるか」ということについては、「自分の子どもの時にやらないでほしい」という考えが出ているが、「子どもの成長のための経験」という視点から前向きに考えてほしい。

鶴田委員：前から「第一中学校」ということで、アンケートも取ったが特段の意見はなかった。中学校の通学路の整備をお願いしたいという声があった。

中村委員：133世帯にアンケートを実施した。回収が15世帯しかなく、関心の低さを感じる。アンケートの中には「通学路が安全面で不安、整備してほしい」、「特別支援学級児童への配慮をお願いしたい」という声があった。

中澤氏：1月19日の育成委員会報告会での資料を配布した。中学校の統合は理解できるが、学区編制をしないということを早い段階で協議できれば良かったという意見があった。ぜひ、学区編制についての協議を進めてほしい。

現在の学区外通学の事由以外でも、学区外通学が認められるかどうかもお話し合ってもらいたい。

伊藤委員：アンケートを実施した。320世帯のうち65世帯から回答があった。

「居ながら施工、仮校舎方式のいずれが望ましいか」との設問では、半々の結果であった。「子どもの安全確保をまず第一にしてほしい」「2度の引越しに伴い、心のケアがはかれるのかが不安」という意見があった。

「通学路について」は、「現在でも危険な場所をなおしてほしい」ということがあげられている。アンケート全体としては、「子どもの心のケアを十分に行ってほしい」という意見が多かった。

渡辺委員：運営委員会で意見を募ったが特段のものは出なかった。統合場所が第一中となった場合には第二中が跡施設となるため、そちらへの関心が高い。

黒田委員：花見川団地新聞に協議の様子について掲載した。「そんなに統合を急ぐ必要はないのではないか」という意見が1名あったが、今のところそれ以外は出ていない。2月の集まりの際に改めて意見を聞いてみたい。

安恒副会長：第一中区育成委員会では「第一中とすることに歓迎」という声がほとんどである。実際の統合に向けての不安を取り除くようにしてほしい。

藤井議長：第二中区育成委員会会長の立場で報告する。報告会でも第一中とすることについて大きな反響はなかった。しかし、賛成という声もなかった。「仕方ない、止むを得ない」との反応であるととらえている。今まで一度も報告会に出たことがない第三小保護者が多かったためか、統合の協議への関心が特に、ようやく現実的に深くなってきた印象を受けた。やはり今回も個人個人の意見として、天戸中への学区変更に関してが最も多く感じた。それだけ、親の立場で、関心度が深刻な問題として受け入れられてきた様子であった。一方、天戸町自治会からは、「学区変更は地区連等の変更も伴う大きなことであるため、現状維持でいきたい、個別（個々の世帯）での対応をしてもらうのが良い」という意見が出された。

今後は、学校単位で説明会や報告会等を開き、必要に応じて事務局（教育委員会）を呼ぶという声も出ていた。育成委員会として、今後も各学校関係の保護者の方々に統合の協議に関する理解を深めていただくために、支援、協力をしていく必要性を特に感じた。

## 8 協議

### 協議（1）「花見川地区の学校適正配置の方向性について」

#### ○中学校の統合場所について

藤井議長：まず、事務局より資料についての説明をお願いします。

事務局：前回協議会での資料とほぼ同じ資料である。追加部分のみ補足する。

資料3：「統合の場所」の中に、先行地区における特別支援学級の校舎移動の状況を追記している。

資料5：教職員の構成の表中に、「学年担当一人あたりの生徒数」を参考に載せている。

資料6：委員からの要望により、今回提示している。左は「中学校の校庭面積」、右が「学区外通学について」である。学区外通学承認の

事由は、市内の全小・中学校共通である。記載されている学区外通学の生徒数は現在の状況である。

藤井議長：資料に関して質問があればお願いします。

黒田委員：資料6の学区外通学の承認は教育委員会が行うのか。

事務局：その通りである。

佐藤委員：該当するそれなりの理由がないと承認されないということか。

事務局：その通りである。個別に十分に面談し、「妥当である」と認められる場合のみ認めている。

阿部委員：仮に「天戸中へいきたい」ということで学区外通学の希望が出される場合、具体的にはどうなれば認められるのか。

事務局：資料6の表中の「第二中在住で天戸中へ」の6名については、「学区外通学の継続」や「転居後も引き続き、現在通っている中学校へ」などの事由である。

中沢氏：学区外通学の承認をしてもらいたい場合、統合のどのくらい前から申請することになるのか。

事務局：学区外通学の申請は個別の申請であるので「随時受け付ける」ことになる。

安恒副会長：「学区外通学を承認する地域」を設定するのかどうかということがポイントであろう。しかし、広く設定してしまうと、統合する意味がなくなるということにもなりかねない。その点はよく考える必要がある。

渡辺委員：「統合を経験させたくない」という事由が認められるのかという声が出ている。それを事由とするのはいかがかと思うが、不安の裏返しなのだろう。

阿部委員：作新小に通っているのは「統合を避ける」ということから別の事由をつけて申請しているということも耳にする。教育委員会の対応に疑問がある。

「統合を避ける」ということからの申請が出ないようにするためにはどう対応してくれるのかということは重要である。

作新小の子どもルームは学校敷地外、第三小の子どもルームは学校内にあるにもかかわらず、子どもルームを事由として作新小へ通わせているというのは不思議である。承認の透明度を保ってほしい。

事務局：学区外通学承認の事由は市内の全小・中学校共通であること、個々の事由によることはご理解いただきたい。

藤井議長：中学校の統合場所について、ご意見があればお願いします。

安恒副会長：第一中区においては第一中以外の声は出ていない。第一中とするとして、具体的な課題について協議していくことの方が良いのではないかと。

黒田委員：第一中とすることに伴う通学路の安全や、仮校舎による心配事などを具体的に協議していくのが良いのではないかと。例えば仮校舎にすることによりどのようなことが発生してくるのか。

佐藤委員：各校で耐震工事した際にはどのように行ったのか。

渡辺委員：第三小の耐震工事の際には、校庭にプレハブ校舎を建てた。そのため2年間は校庭が使えなかったが、子どもたちはそれほどストレスやトラブルがあったとは聞いていない。

黒田委員：第一中で耐震工事が必要なのは体育館だけなのか。

事務局：第一中、第二中ともに校舎の一部も耐震工事が必要である。千葉市の全小・中学校については、原則として耐震工事を26年度末（27年3月）までに完了する予定で進めている。

佐藤委員：今のところは、統合場所は第一中で良いのではないかと考える。「居ながら施工」なのか「仮校舎方式」なのかはその次の検討課題だろう。

坂本委員：まずは「中学校の統合場所は第一中とする」という確認をした方が良い。

藤井議長：「中学校の統合場所は第一中とする」ということでよろしいか。

一 同：異議なし。（了解）

藤井議長：では、「中学校の統合場所は第一中とする」ということで確認する。

坂本委員：考えられるさまざまな課題については、事務局に整理してもらった方が良い。

安恒副会長：課題を含めて、第一中を前提とした場合の詳細を出してもらいたい。

阿部委員：「通学路の危険場所」「通学路の整備」「居ながら施工にすることのメリットとデメリット」等についても資料提示してもらいたい。

黒田委員：生徒の活動場所の確保についても重要だろう。

伊藤委員：スペースの制約により、式典等の学校行事についてもできるものとできないものに分けられるだろう。「居ながら施工」の場合に使用できる場所やもの等をもっと詳しく提示してほしい。

佐藤委員：今出たような資料を提示してもらえるとありがたい。

事務局：「居ながら施工」にすることのメリットとデメリットを含めて、資料4のシミュレーションを整理し、詳細なものを提示していきたい。

埜委員：耐震工事についてだが、事前に保護者等との事前協議はあったのか。

渡辺委員：なかったと思う。

坂本委員：学校単位であるので、事前協議はないだろう。

埜委員：統合した先行地区の例があるわけなので、内容や工程等を提示してもらった上で、居ながら施工なのか仮校舎方式にするかを協議していくのが良い。「意見は聞きますが実は・・・」ということになるのはまずい。教育委員会の考えも示してもらった方が良い。

事務局：耐震工事については、市全体として「居ながら施工」で行っている。

黒田委員：資料として、通学路についても示してほしい。

佐藤委員：地域としても大切なことである。きちんと示していただきたい。

事務局：次回提示したり説明したりする事項は次のものでよろしいか。

- ・居ながら施工と仮校舎方式について（メリット・デメリット含む）
- ・通学路について（危険箇所等含む）

伊藤委員：中学校では実際に統合に関連する学年は現在の1年生だけである。そこで、これから中学校に通う（現在の小学校の子どもをもつ）保護者の声をもっともっと出してほしい。中学校に対しての意見も出していただきたい。

特に、第二中区（第三小と花島小）からあがってくる意見があると良い。

藤井議長：時間もきているので、「中学校の統合場所は第一中とする」ということで確認し、次回協議会に要望のあった事項に関する詳細な資料を提示したり説明したりしてもらおうということよろしいか。

一 同：了解。

## ○小学校の統合場所について

藤井議長：次に、小学校の統合場所について協議する。資料について説明をお願いする。

事務局：資料7～9について説明

資料9：協議会委員の要望により、通学路の状況について示している。

藤井議長：小学校の統合場所について意見が出ていれば報告をお願いしたい。

安恒副会長：通学路の安全性や距離、特別支援学級への配慮等を考慮する必要がある。

また、地域の避難場所という点を含め学校配置のバランスという視点もある。通学距離の問題でいえば、最長距離は第二小の方が短くて済む。特別支援学級の子どもたちに配慮すれば、第一小ということになる。どの要素を重く見るかの問題となる。第一中区育成委員会の報告会では、学校配置のバランスや特別支援学級への配慮ということを考えると「第一小が良い」という個別の意見はあったが、第一小学区の方からの意見であり、育成委員会としてのまとまった意見というわけではない。

藤井議長：第一小、第二小の意見はどうか。

板谷委員：アンケートの結果、「第一小が良い：72%」「第二小が良い：3%」「どちらでもよい：24%」「その他：1%」となっている。

第一小が良い理由としては、配置のバランスや避難場所、特別支援学級への配慮があげられる。第二小が良い理由としては耐震補強が行われていることや、中学校に隣接しているという学び合う環境があげられている。

先日実施した特別支援学級保護者との意見交換（5名参加）では、在籍9名のうち7名が学区外通学であり、第二小になると「通学路が長くなる、覚えにくい」「朝、車で入れないスクールゾーンとなっている」「（特別支援学級がなく、慣れていない）第二小の子どもの反応が不安」等の意見が出された。いずれにしても、子どもどうし・保護者どうしの交流を十分に行う必要があると考える。

川口委員：何のために適正配置を行うのかといえば、なにより「子どもたちのため」である。子どもたちの教育環境を整備することが最重要である。満足な教育を受けさせることを考えるべきである。

車の入れない「スクールゾーン」があるということはかえって安全であるということになるし、セーフティーウォッチャーもいる。車での送り迎えについては、特別な配慮・対応があれば問題ないだろう。

今だけでなく、自分の子どもたちが卒業した後も考えていかななくてはならない。森もあり、車も入ってこないで安全ということであれば、第二小も良いのではないか。小中連携や一貫教育ということについては、今の第二小と第一中の良好な関係があるので、続けていければ良いだろう。

藤井議長：それぞれ自校が良いということである。他の委員の中で特にいっておきたいということがあれば、ご意見を伺いたい。

坂本委員：花島町から通っている子どもは、学区外通学なのか。

事務局：第二小前の商店街が学区外承認地域となっている。

坂本委員：第二小の学区が分かれて、花島小に行くということも考えてもいいのではないか。

安恒副会長：第一小、第二小ともにメリット・デメリットがある。そこで、もう一度出された意見を整理して評価表等にまとめる中で、会長と副会長で十分に検討し、小学校の統合場所についての方向性を示した案を次回協議会で提示し、それをもとに協議していただく流れでいかがか。

佐藤委員：学校は、自分の子どもが卒業したらそれでもう関係なくなるということではなく、ずっと関わり続けていくという姿勢が必要である。そういう意識で協議していくことが大切である。

埴 委員：軽々しくできないことではあるが、早めに結論を出せるのであれば早く出してあげて、良い環境で学ばせてあげたい。

藤井議長：時間が過ぎているので、本日の協議はここまでとする。

本日の協議内容をまとめると、「中学校の統合場所は第一中とする」「小学校の統合場所は次回も継続審議とする」ということで確認する。

また、安恒副会長から提案があったが、会長・副会長で十分検討し、次回協議会では、出された意見を整理して評価表等にまとめるなど、小学校の統合場所についての方向性を示した案を提示し、協議していただくということによろしいか。

一 同：異議なし（了解）

## 議題（２）次回協議会について

藤井議長：事務局から提案いただきたい。

事務局：次回は、平成25年3月13日（水）18時30分から、花見川公民館でいかがか。

一 同：異議なし（了解）

## 9 諸連絡

事務局：以下を連絡した。

- 1 議事要旨（案）の確認：修正があれば返送期限に回答する。また、教育委員会のHP上にも公開させていただく。
- 2 本日の協議内容：各委員が持ち帰り報告し、意見集約をお願いする。
- 3 報告会等において、事務局からの説明が必要であれば連絡いただきたい。
- 4 欠席する場合：事務局へ連絡をお願いしたい。

## 10 閉会（原田会長挨拶）

遅くまで協議いただき感謝する。事務局には、統合のシミュレーションに関連して、工事の詳細（期間、規模、手順等）について次回示してほしい。

また、協議のたたき台として比較表を次回提示するので、それをもとに協議し、小学校の統合場所について方向性を早めに出していきたい。ご協力をお願いします。

最後に情報としてお伝えしておく。柏井・横戸から通学する生徒の通学路に関連して柏井小前信号から柏井高校入口までの間の道路拡幅に向けた動きについては、時間がかかっているが、現在、用地買収のための測量が実施されている。また、花見川公民館から第一中への道路についても、整備に向けての取り組みが図られているところである。